

ONE COIN CONCERT



ワンコインコンサート

Kameyama

2017.9.24 sun

14:30開場 15:00開演

入場料(自由席)500円

亀山市文化会館

■主催 公益財団法人亀山市地域社会振興会



音 絢

— おとない —

繋がりに

紡ぎだす音で

越える世界

出演

- * 和太鼓 凛
- * 響 道宴 (和太鼓)
- * 山中信人 (津軽三味線)
- * 武田朋子 (篠笛・能管)

演奏曲目

- * 津軽じょんがら節
- * ソーラン節
- * 竹田の子守唄
- * 大太鼓
- * 花風 ほか



当日 500 円にてご入場いただけます。



【和太鼓 凛】

三重県鈴鹿市出身。

2000年名古屋にて和太鼓プロチーム「打歌人」創設に参加。

2002年レナード衛藤主宰のレオ project に参加。

2003年和太鼓プロチーム『GONNA』をメンバと共に創設し、中心メンバーとして全国各地にて演奏。

2010年より、三重県を拠点にソロ活動を展開。日本にとどまらず、インド、韓国、アメリカ、タヒチ、オランダなど海外でも演奏活動を広げている。

2010年11月輝く女性「SAVE WOMAN」として、ちふれ化粧品CMに出演。

第14回三重県文化賞文化新人賞を受賞。

2016年鈴鹿ときめきカルチャー大使に就任。同年7月鈴鹿医療科学大学創立25周年記念コンサートにおいて、ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル(NYSE)と共演。和太鼓が加わるユニークなクラシックコンサートとして話題を呼んだ。三重県に根差すことで生まれる感性を大切にしながら活動している。



【和太鼓奏者／響 道宴（ひびき・とうえん）】

東京都杉並区出身。

演出家・松永良男太に師事し、舞台人としての基礎を学ぶ。

太鼓集団「鼓童」のメンバーとして、海外・国内公演・CDに参加。

より深い太鼓の可能性を求め、「鼓童」を退座し、1995年よりソリストとして活動。

その場、その時を感じながら「人」や「自然」との繋がりを表現し、「個」として太鼓と正面から向き合い、独創的な世界観を確立。世界でも稀なサポートメンバーを入れない完全独奏による和太鼓のソロCDもリリースしている。

また、その一方、創造的でチャレンジ精神旺盛な姿勢で異種表現者（陶芸家・文楽人形遣い・舞踏家・狂言師・ヴォーカリスト・ピアニスト・ダンサーなど）とのコラボレーションも重ね、和太鼓の音楽的な可能性や表現を提示し続け、さまざまなユニットや企画の立ち上げ、プロジェクトへの参加、海外公演も行っている。

太鼓の音は、人間の根源的な部分にダイレクトに伝わる音であること、いわゆる丹田（腹）で感じ、本来日本人が持っていた、空間や行間を楽しむ「間」の文化、見えないところにも気を配る「粋」の文化、見えないものを感じ取る「感性」の文化と、感性を呼び起こすことができる楽器であることを基に、和太鼓奏者として様々な試みにチャレンジ中。後進の育成にも力をそそぎ、学校公演やワークショップ、指導も行っている。響道宴web site→<http://t-hibiki.com/>



【津軽三味線奏者／山中信人（やまなかのぶと）】

中学校卒業後15歳で単身青森県弘前市に渡り、津軽三味線奏者「山田千里(ちさと)」の内弟子として4年間修業。山田流師範となる。毎年青森県弘前市で開催される津軽三味線世界大会では最上級A級2年連続優勝、また津軽民謡の伝統的な唄付け技術を競い合う「唄付け伴奏部門」で3回の優勝を獲得。

海外計21カ国で演奏。約16年にわたり伊藤多喜雄&タキオバンドのメンバーとして活動。

2015年出雲大社、日光東照宮にておこなわれた「市川海老蔵奉納舞踊公演」出演。

現在はソロ奏者として活動中。

洗足音大非常勤講師。加須市観光大使。

※2017年5月4日青森県「弘前市民会館」にておこなわれた第36回津軽三味線世界大会で最上級A級チャンピオン獲得二連覇達成。



【篠笛・能管奏者／武田朋子（たけだともこ）】

江戸囃子の太鼓・笛を習得し、悠玄亭玉介社中の太鼓方として活動後、佐渡の太鼓集団「鼓童」文化財団研修所にて2年間の研修を修了。能管を能楽の笛方・一噌幸弘氏に師事。

和太鼓と笛のDUO「朋郎」で3枚のアルバムを発売し、42都道府県を巡る全国ライブツアーを展開中。

定期的にJAZZトリオとのセッションライブ「篠笛de JAZZ」を開催。ゆず、青柳拓次など多数のレコーディングに篠笛で参加、2013年には映画『SHORT PEACE』大友克洋作「火要鎮」に能管で参加。2015年よりポルトガルを中心としたヨーロッパツアーを毎年行うなど、日本各地、世界各地で演奏、作曲、指導と幅広く活動中。

自身の感性をゆるがす全てのものからインスパイアされて生まれ出る、独自の音世界を篠笛、能管で表現していくことを目指している。

<http://tokorohare.com/tomo>